

位置情報を活用した多言語音声翻訳システム

インバウンド需要の増加に沿う形で、観光タクシー向けに多言語音声翻訳システムを開発した。音声翻訳精度の更なる改善に向けて、観光地の位置情報を活用した翻訳精度向上機能を開発した。地域ごとに漢字の地名の読みが異なる場合や、その地域独自の施設の名称については、音声認識や翻訳処理、翻訳結果を出力する音声合成が正しく動作しない可能性が高いという課題がある。本技術では、観光タクシーでの利用という観点から位置情報の活用に着目し、音声翻訳システムを利用している位置情報に基づき、音声認識、翻訳、音声合成の辞書機能を切り替えることで、精度を向上させる仕組みを構築した。名古屋市から岐阜市に至る経路での実証実験により、利用者の位置に応じて適応的に辞書が切り替わることを確認し、有効性を示した。

また、鳥取市および岐阜市のタクシーにおいて、多言語音声翻訳システムを活用した社会実証を実施した。本社会実証では、多言語音声翻訳システムを観光タクシーに搭載し、従来課題となっていたタクシー運転手と訪日外国人のタクシー内のコミュニケーションを円滑にし、言葉の壁に起因する社会サービスの差を克服することを確認した。

本案件は、「グローバルコミュニケーション計画～多言語音声翻訳システムの社会実装」（2014年4月11日 総務大臣発表）において、情報通信研究機構が開発した多言語音声翻訳技術を高度化し社会実装を推進していく施策として、KDDI および KDDI 研究所が受託した「グローバルコミュニケーション計画の推進-多言語音声翻訳技術の研究開発及び社会実証-」の一環として実施した。

